

麻疹流行終息宣言（保健医療部長コメント）

【患者発生状況の概要】

県内で4年ぶりとなる「はしか」が3月20日に確認され、その後感染が急激に広まり、5月15日までに99名の患者が確認されました。

初発患者は外国人観光客であり、「はしか」に罹患した状態で3月17日に来沖し、その後、複数の大型商業施設等を訪れるなど、不特定多数の人と接触したため、感染は県内全域へ拡大しました。

今回、感染した患者のおよそ7割がワクチン未接種、あるいは接種歴が不明の方で、小児の感染者は比較的少なく、患者の約7割が20代から40代の成人でした。この世代の方は、制度的にワクチンを1回しか接種していない方が多く、感染防御に必要な免疫が十分でない方が一定数いることが指摘されています。

今回の流行では、外国人観光客などを含め不特定多数の人と接触する機会が多い観光業や接客業の方が多く、また、患者と接触する機会の多い医療従事者も感染しました。これらの職種に従事する方は、必ず、ご自身の抗体価を検査し、感染防御に必要な抗体価がない場合は、積極的にワクチンの接種をお願いいたします。2回のワクチン接種率が95%以上あれば、仮に、「はしか」のウイルスが持ち込まれても、流行することはないといわれています。組織、社会全体での取り組みが必要です。

【沖縄県保健医療部の対策】

県では医療機関の協力を得ながら、「はしか」の感染拡大防止に努めてまいりました。まず、患者対策として、「はしか」が疑われる患者を診察した医師は、直ちに保健所へ届出し、衛生環境研究所にて迅速に検査を行いました。結果が出るまでの間、患者に対する外出自粛や、陽性の場合、感染拡大防止の指導を致しました。また、患者の行動歴から、感染した場所や、感染を広げた可能性のある場所を調査するとともに、そこで接触した可能性のある方を可能な限り特定し、健康状態を観察を行い、発熱などの症状が現れた場合は直ちに検査を行うなどの対策を実施してきました。これまでに健康観察の対象となった者は、約5,550名で、そのうち「はしか」が疑われ検査を行った数は576例。検査診断されたのが99例です。

また、「はしか」に感染しやすく、感染した場合重症化する恐れがある6ヶ月～11ヶ月の乳児を守るため、緊急予防接種の補助を市町村と連携して開始し、6月末日までの期間限定で県内すべての市町村において実質無料でワクチンが受けられるようになりました。4月末日時点で、対象者の約4割となる4,716名の乳児が予防接種を実施しています。

一方、各種メディアを通じて定期予防接種を勧奨するとともに、ワクチンが不足することがないように、厚生労働省へ、必要なワクチンの確保を依頼するとともに、県内の医薬品を取り扱う主な卸販売業者から、在庫状況、出荷状況を

確認しています。さらに、正確な情報を多くの方に伝えるため、流行期間中は、ほぼ毎日、患者の発生状況を県のホームページに公開し、記者ブリーフィングを開催しました。また、県民の不安や各種問い合わせに対する電話相談、観光客、医療機関及び市町村の予防接種担当者向けの Q&A の作成、及び関係者への情報の共有を図りました。

【今後の取組み】

今回の流行は一端終息することができましたが、同じようなケースが発生することは、十分考えられます。そのため、県では、関係機関と連携し、引き続き、①定期予防接種実施率向上に向けた対策の強化、②定期予防接種未接種者への推奨、③感染するリスクが高い医療従事者、予防接種が不可能な妊婦や 0 歳児に接触の機会が多い児童福祉施設の職員、及び幼児、児童、体力の弱い者に接する機会が多い学校職員への推奨、④外国人観光客と接する機会が多い職業の方、海外へ渡航する者のうち罹患歴又は予防接種歴が明らかでないものに対する予防接種の推奨に取り組んで参ります。

結びに、今回のはしかの封じ込めについては、国立感染症研究所 感染症疫学センターのご支援を頂き、さらに、医療関係者、市町村及び県民が一丸となって取り組んだことで、終息を迎えることができました。この場をお借りしてお礼申し上げます。